



第125号
平成31年
3月15日発行

蒼雲

【発行】

島根県立三刀屋高等学校
〒690-2404
雲南市三刀屋町三刀屋 912-2
TEL: 0854-45-2721
FAX: 0854-45-5630

【生徒会誌発行】



「雲南」
良い生徒会誌
ができたと思
います。」と話
していました。

三月一日、後期生徒会執行部が編集を続けてきた三刀屋高校生徒会誌「雲南」を発行しました。企画ページでは三刀屋高校の特色であるキャリア教育に着目し、教育魅力化コーディネーターの阿部さんと岡島さんにインタビューを行っています。また、生徒へのアンケートでは、先生や生徒同士での楽しい一コマが取り上げられています。会長の景山くんは「最初はなかなか企画が出なくて苦労しましたが、

平成30年度後期生徒会執行部

生徒会長	景山 誓太	執行委員	吉田 千之輔
副会長	永見 あいか		山根 光博
議長	内田 有菜	総務委員長	佐藤 圭祐
副議長	渡部 なつみ	文化委員長	木村 花蓮
書記	恩田 玲美	体育委員長	渡部 恭也
	小林 心	ボランティア委員長	齋藤 世莉
会計	恩田 有里		
会計監査	飯塚 大翔		
	名原 歩		

【野球部が三刀屋保育所を訪問】

二月二十八日、全国各地で行われている野球人口の底辺拡大を目指す活動の一環として、三刀屋高校野球部二十二人が三刀屋保育所を訪問し、園児たちとの交流を行いました。

部員たちは、「楽しんでボールを投げる園児の笑顔に」とても癒やされた、「投げる・捕る・打つことの楽しさなど野球の楽しさの原点に立ち返ることができた」など、とても充実した時間を過ごすことが出来た様子でした。



【ピンクシャツデー】

二月二十七日、生徒昇降口でピンクシャツデーの活動として生徒会執行部が登校する生徒に「いじめ」や「人権」についての呼びかけを行いました。ピンクシャツデーは二〇〇七年にカナダで始まったいじめ反対のための運動で、毎年二月の最終水曜日に活動が行われています。

生徒会執行部の生徒はポロシャツなどピンク色のものを身につけ、全校生徒に向けて元気のいい挨拶といじめ防止の呼びかけをしました。



第71回卒業証書授与式

正しき道に希望あり 百二十九名が新たな世界へ

早々と今年の春は立ちにけり。例年になく冬で、蒼雲館の紅梅も満開に咲き誇り、早い春の訪れを感じさせてくれています。

本日ここに、雲南市教育委員会教育部長 須山貴吉様、PTA会長 難波一志様、島根県議会議員 山根成二様をはじめ、多数のご来賓の皆様方にご臨席を賜り、島根県立三刀屋高等学校第七十一回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことを、高いところからでございますが、深く感謝申し上げます。

また、本日より列席いただきました保護者の皆様には、心からお祝い申し上げます。お子様の成長された姿を改めてご覧になり、入学以来の様々な出来事に思いを巡らし、感慨いかにばかりかと拝察いたします。保護者の皆様のご苦労に、本校教育へのご支援、ご協力に心から御礼申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与いたしました百二十九名の卒業生のみならず、卒業おめでとうございます。本年度の三年生は、実にチャレンジ精神旺盛で、現状に甘んじることなく、何かを変えてやろう、大きく改革してやろうという意気込みを感じさせる学年でした。

が達成される一方、高齢化などに伴う社会コストの抑制、食料ロスの削減、地域間格差の是正という社会的な課題も多く生じています。

また一方では、IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術も革新的に進んできています。このように変化の激しい現代社会にあって、次の時代を担う君たちに求められるものも大きく変わりつつあります。直面する課題を解決していくための課題解決能力、そして新たな価値を生み出していく創造力、未知なるものに果敢に挑んでいくチャレンジ精神は間違いなく新しい時代に求められるものであろうと思います。

今ここにいる卒業生のみならず、三年間本校での充実したキャリア教育を受け、様々な体験や地域の皆様との交流を通して雲南の、島根の、そして日本の課題を見つめ、その解決法を考えてきました。そして、そのことにより、確かな学力と課題解決能力と地域のために貢献しようとする貢献意欲を身に付けました。また、日頃の授業をベースに、生徒会活動、部活動、学校行事を通して様々なことにチャレンジしてきました。まさしく、常識を学び、汗をかき、ときに常識を疑い、果敢にチャレンジしてきたこと、たくさんあったでしょう。思うようにならず苦しんだこともあったでしょう。

直木賞作品である恩田陸さんの「蜜蜂と遠雷」には、次のような一節があります。「何かを上達する時というのは階段状だ。ゆるやかな坂を上がるように上達する、というのはあり得ない。ピアノを弾いても弾いても足踏みばかりで、ちっとも前に進まないときがある。これがもう限界なのかと絶望する時間がいつ果てることもなく続く。しかし、ある日突然、次の段階に上がる瞬間がやってくる。なぜか突然、今まで弾けな

いえません。経済発展が進む中、人々の生活は便利で豊かになり、エネルギーや食料の需要が増加し、寿命の延伸

かったものが弾けることに気付く。それは、喩えようのない感と驚きだ。」これは、誰しも苦しいときがある。しかし、決してあきらめてはならない。希望を捨てず、耐えて努力を続ければ必ず道が開ける。と我々に教えてくれています。課題解決能力、創造力、チャレンジ精神、どれも重要な力ではあります。が、「あきらめない」ということは何よりも大切なことだろろうと思います。

一人では、耐えられないことも、家族、友人、地域の人たちの力を借りることによって乗り越えていけるものもたくさんあります。事実、みなさんが、今こうしてここにいられるのは、多くの人が支えてくれたおかげです。学習活動に、部活動に物心両面にわたって支援をしてください。PTA、並びに雲南会の皆様、キャリア教育の多くの活動に快く協力していただいた関係機関や地域の皆様、3年間ともに汗を流した仲間たち、全力で指導してくれた三刀屋高校の教職員、そして苦しい時も楽しい時もそばにいて支えてくださった保護者の皆様、このことを忘れてはいけません。そして、これからみなさんは多くの人に支えられて生きていきます。感謝の気持ちはもちろん、三刀屋高校で頑張ってきたという自信と誇りと情熱を持って新たな世界に向かってほしいと願っています。正しき道に希望あり、われらの三高ここにありと、ひとしくともに誇るべし。

みなさん一人一人が、我がふるさと雲南の、島根の、そして日本の輝ける星となることを心から祈念し、式辞といたします。

第七十一回 卒業証書授与式 式辞より



4月の行事

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月
国民の休日	昭和の日			第1回PTA評議員会 閉会 試験発表	1年フレッシュマンセミナー② 2・3年遠足	1年フレッシュマンセミナー① 眼科検診(2年2クラス)	生徒会選挙 身だしなみ指導	内科検診(2年2クラス)				3年全統M模試・就職公務員模試	3年全統M模試・就職公務員模試	3年全統M模試・就職公務員模試	開校記念日 1年進路講演会 3年全統M模試・就職公務員ガイダンス	内科検診(1年3クラス) 自転車点検			1年心電図・血液検査 生徒会選挙告示	6限授業	課題テスト 1年ガイダンス・写真人権意識調査 内科検診(2年2クラス) (街頭指導(1・2日))	入学式 入寮式	始業式 2・3年写真	開寮					

第71回卒業証書授与式 答辞 卒業生代表 毛利優希



冬の寒さも和らぎ、春の到来を感じる季節となりました。春。いつもなら待ち遠しい、春。今年の春はどこか違うようです。卒業。この二文字が今年の春の意味を大きく変えているのだと、今この場に立ち強く感じています。私達百二十九名は、本日沢山の思い出が詰まった三刀屋高校を卒業します。ご来賓の皆様をはじめ、多くの方にご臨席を賜り、このように盛大な卒業式を挙げていただきありがとうございます。心から感謝申し上げます。

「新しい仲間とともに、将来の夢や目標を現実させるために悔いのない三年間を送りたい。」これは三年前の入学式の際に、私がこの場で代表として誓ったことです。これから始まる高校生活への希望や期待で胸がいっぱいだったことを今でも覚えています。その日から今日まで、三刀屋高校の総合学科ならではのキャリア教育を通して多くの経験をさせて頂き、これから自分はどう生きていくべきなのか、どのように生きていくのか、何度も考えてきました。自分自身について深く考えるという行為は、同時に他者についても考えるという行為である。私はこの三年間を通じて実感しました。なぜなら私の三年間の思い出には、全て自分以外の誰かの存在が付随しているからです。

人に迷惑をかけてしまうという団体競技への怖さがあったのだと思います。先輩が引退されると私は女子のキャプテンになりました。中学校の時から陸上をやっている部員がいる中で、高校から始めた自分がキャプテンをやってもよいものなのか、最初はとても不安でした。しかし、それは杞憂にすぎないとすぐに気が付きました。何の知識もない私に練習メニューのアドバイスをしてくれた仲間。どんなに辛いときも「フアイト」と全員が声を掛け合って乗り越えた練習。陸上競技は個人競技だからといって、決して孤独な競技ではありませんでした。最後の総体、二分三十二秒間絶え間なく私の耳に聞こえてきたのは、仲間の応援でした。団体競技を避けていたはずなのに、逆に仲間の存在の大切さを知った。陸上競技は個人競技ではありませんでした。他者の存在を強く認識した出来事として、もう一つ挙げられるのは、生徒会長という立場で臨んだ最後の三高祭です。四月、私は生徒会長に立候補するか否かすごく悩んでいました。しかし、一度きりの高校生活。後悔したくないと思いつき、立候補することを決めました。今年の三高祭は今までの違ったものになりました。その思いのもと執行部を中心に三高祭の準備に取り掛かりました。しかし、何か特別なことをしようと思えば思うほど自分たちへの負担は増えていく一方で、日増しに楽しさよりもストレスの方が大きくなっていききました。生徒会長の自分ももっと頑張らなさい、そう強く思うが余り、私はいつしか周りが見えなくなっていました。一人でイライラし、他の執行部のメンバーに気を遣わせてしまいました。そんな自分が情けなく、不甲斐なく、生徒会長なんてやらなければよかったとさえ思うようになりました。そんな自分を救ってくれたのは、その様子を外から見ていたある一人の後輩からのラインでした。「自分をよく見せようと思わずに、等身大の自分を見せればいいと思いますよ!」「優希さんには十人の執行部の皆さんもいるし、応援してくれる人もたくさんいます!」私は自分の生徒会長としての理想像に近づくために、自分がかっこよく見せようと躍起になっていたのかもしれない。しかしその言葉を聞いて大切なことに気が付きました。自分以外の誰かの存在で

す。会長としての重圧に耐えられなくなった時、「みんな頑張ろう」と声を掛けてくれて、支えてくれた執行部のみんな。一人で何とかしようとしていた時に「一緒に考えよう」と夜遅くまで文化祭のタイムテーブルと一緒に考えて下さった先生。今までほとんど話したことなかった私の頼みにも、二つ返事で協力してくれた三年生のみんな。そして当日一緒に盛り上げてくれた一、二年生。全校生徒が一つになった瞬間を目にした時、生徒会長をやったよかったと心から思えました。三高祭を終えた私は当初思い描いていた理想の生徒会長とは程遠かったです。しかし当初思い描いていた生徒会長の何十倍も素敵で最高の沢山の仲間が囲まれた生徒会長でした。

私にとって忘れられないことは、部活動や学校行事だけではありません。私の高校生活は先生方の存在無くしては語れないと思っています。廊下ですれ違う一瞬の間に受験前の私の心理状態を汲み取り「肩の力抜いて行けよ」と言ってくれた先生。添削指導において忙しい時間の合間を縫っていつも全力で指導してくださる「手伝えることがあったら何でもするから」と嫌な顔一つせず向き合ってくれた先生。誰にも言えなかった悩みを放課後私が前を向けるようになるまで聞いて下さり、「お前なら大丈夫だ」と背中を押して下さった先生。自分一人では抱えきれない思いがあった時、上手いかわず途方に暮れていた姿を見た。「いつでもおおいで」という先生の言葉が私の心の支えでした。私たちの表情一つ一つを見逃さず、心が折れそうになった時にはすぐに気付いて下さった先生。三刀屋高校で出会った先生方は私にとって憧れであり、私もそんな風になりたいと強く存在です。そしてそんな先生方が大好きでした。

そんな先生方の存在が私に与えています。それは両親への感謝です。三人兄弟の末っ子の私は、一番迷惑をかけたことだと思っています。精神的に弱く、大きな行事や大会、受験の前にはいつもご飯が食べられなくなるほど緊張し、弱音を吐く私を、母親はいつも「あんたなら出来るから頑張らなさい」と鼓舞してくれました。母親の厳しい言葉の裏には、確かに私への深い愛情があったことを私は知って

います。父親は仕事が忙しい時でも、私のことを第一に考え、いつも一番近くで応援してくれました。父の母校に通うことが出来て本当によかったです。両親はこれから子ども三人が離れていく事を寂しく感じている事かと思えます。でも安心して下さい。私たちはどんなに遠くに行っても心は繋がっています。私はお父さんとお母さんの子どもなのだと心強く感じながら、これから少しずつ恩返しをしていきます。そしていつかは必ず、お世話になった地元に戻ってきて、雲南市を、島根県を引っ張っていくような人になります。楽しみにしててください。

「新しい仲間とともに、将来の夢や目標を現実させるために悔いのない三年間を送りたい。」今では一生の仲間となったみんなと過ごしたこの三年間、私には一つの後悔もありません。三刀屋に進学した自分の選択は正しかったのだらうかと何度も考えました。しかしその度にそれを肯定出来たのは、大好きな三年生のみんなとの出会いのおかげです。みんなに会うことが私の学校に行く理由の一つとなっていました。楽しい時も、嬉しい時も、辛い時も、苦しい時も、そばにいてくれてありがとう。私は三刀屋高校の校歌が好きです。自分の青春は確かにここにあったのだと感じられる、そんな校歌が、私は好きです。おのおのが選び進みゆく今、この友情のかわることなく未来に向かつて歩いていきたいと思います。辛くなったら戻ってきてまた昔みたいに語り合いたいです。きっとすぐに高校時代の私たちに戻るはずですよ。

三年間良い事ばかりではなかった。上手くいかなくて、期待に応えられなくて、自分を嫌いになりそうになった時もあった。それでも私の事を好きでいてくれた友達。私。後輩がいた。先生がいた。両親がいた。私の高校生活は、とても幸せでした。三刀屋高校での沢山の出会いを心の支えにし、三刀屋高校卒業生としての誇りと高い志を持ち、これから新たな世界へと羽ばたいていこうと思えます。

最後になりましたが、私達に関わって下さったすべての皆様に改めてお礼を申し上げますとともに、大好きな三刀屋高校の益々の発展をお祈りして、答辞といたします。

【未来創造探究Ⅱ】

三刀屋高校では、地域の課題を知り改善にむけた提案を行う「未来創造探究」を行っています。一年生は、二月六日、地域の方々に自分の興味・関心について話す活動を通して地域や社会の課題と自分の興味・関心との接点を考える「トークフオークダンス」を行いました。

生徒たちはあらかじめ準備した自分の興味・関心に関するキーワードを四つ示して説明し、地域の方々から質問やアドバイスを頂きました。初対面の方との会話に最初は緊張した面持ちだった生徒たちも、地域の方々の和やかな雰囲気徐々に打ち解け、楽しそうに会話を弾ませていまし



トークフオークダンス (1年生)



学年発表 (2年生)

2年生 学年発表テーマ一覧

- ◆ 英語を話す楽しさを知り、話せるようになるにはどうすればよいか
周藤 茉鈴・木村 花蓮
- ◆ 若者の結婚式離れは食い止められるか
毛利 涼花・周藤 涼香・名原 結花
- ◆ 若い世代に雲南市独自の魅力を伝えるには
錦織 歩香・坂本 鮎香・周藤 空・山川 琉我
- ◆ 人がAIに支配されずに人とAIが共生するには
上村 菜々子・日野 拓海・恩田 有里・武田 大輝
- ◆ 訪問看護の良さを高齢者の方に知ってもらうにはどう発信したらよいか
永見 あいか・須山 希美・飯塚 さくら・恩田 玲美・川角 涼夏
- ◆ 伝統文化のある町とない町の違いは何か
若者に伝統文化を知ってもらうことは可能か
駿馬 香穂・内田 有菜・小田 瑞貴

【総合学科発表会】

二月七日、島根県内の総合学科の高校で行われている探究活動の成果を発表する「総合学科研究発表会」が行われ、一年生の勝部瑠奈さん、芝原春菜さん、坪倉茜さんの「雲南在住の外国人の困りごとから考える外国人にやさしいまちとは」が優秀賞を受賞しました。また、二年生の永見あいかさん、須山希美さん、飯塚さくらさん、恩田玲美さん、川角涼夏さんは「訪問看護の良さを高齢者の方に知ってもらうにはどう発信したらよいか」という発表を行いました。

この研究発表会がコンペティション形式で開催されるのは初めてでしたが、各学校が特色を活かした内容を発表しました。



【マイプロジェクトアワード2018】

二月九日・十日、NPO法人カタリバが主催する全国高校生マイプロジェクトアワード2018島根県大会が行われ、高校生たちが地域や社会の課題に対して自分自身の関心に基づいて実行したプロジェクトを発表しました。

三刀屋高校からは個人部門に4組、学校部門に4組のプロジェクトが参加し、二年生の小田瑞貴君と一年生の堀江柁介君のペアが島根県大会の代表として全国大会に出場するプロジェクトに選ばれました。

二人は「WAKAG A E R Iプロジェクト」と題して、地域の伝統芸能である神楽をもっと若い人達に知ってもらうという取り組みを行いました。

